

## 留学報告書

留学先・期間

ウィーン工科大学

2019年9月-2020年9月

### ■ 留学時期を決めた理由

修士入学前から1年の留学を希望していましたが、私が学外から東大院へ編入していただいたので、日本での研究室の活動も積極的にやりたいと考えていました。そこで準備のタイミングも考え、2年時秋からの留学とし、卒業を一年遅らせました。終わって見た結論としては、春も秋留学も一長一短であり、どちらが良かったかは一概に言えないので、本人のスケジュールリングと動機が最も重要だと感じました。

### ■ 留学先大学への入学手続き

留学を申し込んだ後は、基本的に両大学とコミュニケーションを取っていれば問題なく行えると思います。ただ申し込む前の締切関連はシビアな問題ですので、学内締め切りとビザ関連は出来る限り早く情報収集を開始しましょう。後述しますが、ビザのシステムが複雑かつ手間がかかるものばかりで、費用・時間の両コストが意外と多くかかった印象がありました。

### ■ ビザの手続き

オーストリアの場合、6か月以上になるとビザが必要です。ウィーンで最終的な手続きをするため、日本で行うことは必要な書類の収集だけです。工科大学の方からいただける資料を基に進めれば良いのですが、大使館のHPに記載される内容が分かりづらい上に、ネット上で公開されていた経験者の体験が大学の案内とも違っていただけで混乱してしまいました。加えて、外務省、大使館、翻訳機関等に行ったり来たりするので思った以上に書類を集めるのに時間がかかりました。先方から頂いた資料に疑問点がある場合はすぐに問い合わせた方が良いと思います。

オーストリアでは大学の担当者の方の尽力によりビザを頂くことができましたが、その過程で色々問題があり大変な思いをしました。国境関係は不確定要素が大きいと感じましたので、時間の余裕をもって、少なくともこちら側の不備は完全につぶすために問い合わせたメールなどの証拠となる資料は残した方が良いでしょう。

### ■ 保険関係

奨学金の要件で付帯海学に加入しましたが現地のビザ申請には要件が足りず、現地の保険への加入も必要でした。

#### ■ 留学にあたって所属学部で行った手続きなど

修士 2 年での留学だったので、応募前に卒業時期や要件に関して所属研究科の事務の方に確認しました。担当教官には事前に交換留学制度に応募する旨を伝えました。

#### ■ 日本から持参した方が良いもの

個人的には特になかったです。ただ日本食は高いので必要な人はインスタントや調味料等を持って行った方が良いかもしれません。あとラップのクオリティがかなり低いので、ラップを日本から輸入していた日本人はいました。逆に使えなかったものとして、どの室内もしっかり暖房が効いているので室内で脱げないヒートテックは出番がありませんでした。

#### ■ 学習・研究の概要

修論のための資料収集を行いつつ授業の履修を行いました。前期はレクチャーとセミナーも含めていろいろとバランスよく取れたと思うのですが、後期はコロナの問題もあり、予定していた対面系授業のほとんどが取れなかったことが残念です。

基本的な授業の進行として、授業によるインプットの後は各々で最終的なテーマを決めてレポートや発表を行う形式でした。授業外では、英語資料を読んで小レポートを書いて、ときどき学生間でディスカッションを行っていました。自分の興味のある分野を集中的に勉強・分析できて個人的には満足しています。

私は研究もしたかったのでスタジオは選択しなかったのですが、スタジオの種類も豊富でした。同期の一人は国外の対象地へ遠征しており、自由度の高い授業設計に驚かされました。

#### ■ 語学面での苦労

オーストリアはドイツ語が公用語です。

教員や職員はもちろんのこと、現地の正規生やエラスムスなどの留学生は英語が通じるので大学周りでは英語のみで問題ありませんでした。

観光立国なこともありスーパーや飲食店でも英語が通じる人が多いです。一方で薬局など現地の方しか利用されないような場所は英語が通じません。Google Translate が画像も対応してくれるようになり大変助かりました（日訳は頼りないですが、独英間はかなり精度が良いです）。

日常は上記のように何とでもなるのですが、テロやコロナの様な緊急事態の場合はその国の公用語が使えないと不安があります。ただし Twitter などでドイツ語が出来て発信もしてくださる在澳日本人がすぐに見つかったりします。

#### ■ 宿泊先

寮を希望しており、市には多くの民間寮があるのですが 1 年程度だと短期扱いとなるため個人応募だと断られてしまいました。そのため、大学側が勧める、公的寮運営兼エージェント機関を通して契約しました。

## ■ 生活環境

公共交通は学生であれば半期 150€ほどで乗り放題と便利です。他にも学生だと口座維持費が無料だったり、国鉄のチケットが安く買えるメンバーシップがあったりと学生にやさしいシステムが多いです。

支払い面では、ユーロ支給の奨学金を受け取っていたので、支払い用に現地の銀行と紐づけた現地のデビットカード N26 を作りました。申し込みもオンライン完結でアプリを介して銀行口座から出し入れしたり PIN を設定できたりと非常に便利で、欧州はフィンテックが進んでいるなあと感じました。他にも似たようなサービスがあるので調べて選んでみてください。N26 は TransferWise と提携しており、¥から€へと安く送金もでき（日本の自身の口座がオンラインバンキング対応必須ですが）、なんだかいろいろあって調べ甲斐はあります。

筆者は女ですが、ウィーンの治安は郊外の一部を除いてかなり良いです。もちろん海外の観光都市であるという警戒感は維持すべきですが、体感として東京に近いレベルで安全な欧州の数少ない都市と感じました。しかし独仏ほどではないですが他の欧州各都市同様に、宗教関係の問題は潜在的な問題として存在してはいるようです。（実際に 2020 年冬に宗教関係のテロが起きたようです）

## ■ 奨学金

東大短期・超短期海外留学等奨学金+ウィーン工科大学側提供奨学金

## ■ 学習・研究以外の活動

私は参加していなかったのですが、ドイツ語の学習スクールが追加料金の下オプションとして提供されており、多くの学生が参加していた様です。また、日本に興味のあるウィーン大学の現地学生と日本人留学生の会にも数回参加していました。工科大学では ESN という学生団体が、留学生向けのイベントを通じてウィーン観光や文化学習、留学生との交流の機会を提供しており、私も興味のある会に参加していました。

## ■ 派遣先の留学生へのサポート体制

日本人留学生向けのオフィスがあり、常駐の職員の方がいらっしゃり、大変手厚いサポートがありました。ビザ申請では、今回の滞在中に唯一ドイツ語が使えないと詰んでしまうポイントがあると感じたのですが、多大な尽力を頂きました。

また自分のテーブルが所属研究室では頂けなかったので、オフィスという自由に使える空

間があるのは勉強・研究面でもありがたく、日本の研究室の様な空間として利用していました。どうやら正規の修士学生も自分のテーブルや部屋などはないようなので（図書館やフリースペースを利用しているらしい）、かなり恵まれていました。備え付けのデスクトップPCにarcGISを契約いただけるなど、職員の方も本当にフレンドリーで親切です。

#### ■ 就職活動について

留学後に就活をしたので、留学という経験によって自分の企業への視点と企業から私への視点・期待の両方について大きな変化があったと感じています。そのような意味では就活前の留学はメリットがあります。

ただし就職活動の時期を決めるのは個人的に勇気が必要でした。はじめに私の見ていた分野が日系企業のみで、業界の採用慣例で留学前や留学と並行した就職活動が難しく、完全帰国後の修士2年の9月に就職活動を開始する予定でした。日本にいる間に通年採用や例年2次募集以降がある企業をリスト化していましたが、もちろん大手かつ絶対数が限られているのでリスクは大きいと感じていました。そのためキャリアフォーラムといった留学生向けの就活イベントやエージェントを活用して就活スキルアップやリスクヘッジを行っていました。しかしコロナによる帰国で運よく(?)留学しなかった場合(よりやや遅いくらい)のスケジュール感で普通の国内選考フローに参加できてしまいました。ただ個人の感想ではありますが、留学生の中で差別化できれば、留学生向けのイベントかエージェントで内定を頂くことはできるのではないのでしょうか。留学と卒業が入学時の同期より遅かった分、先に入社した同期からの情報収集網があり、それが強みになる部分もありました。

#### ■ 留学の意義

単純に英語の必要性をより感じました。異なる国の学生が雑談の中でもリアルタイムで行われている他国の事業ケースについて英語で情報交換している姿を見て(しかも登場する国は英語圏ではない)、英語でシームレスにつながる欧州圏の強みを痛感しました。今後はより精度の高い機械翻訳が一般化していくとは思いますが、一次資料を確認できる能力としての英語は必須だと感じました。

加えて自分の専門が都市計画なので、欧州での政策について学び、実際に一市民として多角的に体感できたことは勉強になりましたし、帰国後に修論として仕上げる際に非常に役に立ちました。

また、とりあえずやってみるマインドを得られたことは個人的に大きい点でした。ひとまずこの修士課程で学生生活の一区切りなので、大きな心残りなく終われそうだという点でも個人的な意義がありました。

#### ■ メッセージ

私個人は英語も苦手で内向的なので留学なんてできるのだろうか?という部分からのスタ

ートでしたが、両大学の担当の方をはじめ、本当に多くの方からのサポートを頂くことでここまで来ることができました。感謝してもしきれない思いです。

ということで一人では交換留学はできないので、もし興味があるのであればまずは国際交流課に一度訪れてみることをお勧めします。留学へのルートやスケジュール感が具体的にになるので、そこからどうするか考えてみるのも良いと思います。